新幹線のバリアフリー対策検討会について

国土交通省

資料4-2

1. 検討会の趣旨

○ 東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、新幹線のバリアフリー対策を抜本的に見直し、**世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道を実現**するための検討を行う。

2. 検討体制と開催状況

新幹線のバリアフリー対策検討会

【構成員】
- JR北海道、JR東日本、JR東海、JR西日本、JR九州
- DPI日本会議、日本身体障害者団体連合会　等
- 国土交通省 総政局、鉄道局

【開催実績】 2019年12月23日　第1回、2020年8月28日　第2回

ソフト対策検討WG

2020年1月17日 第1回、2月 7日 第2回、4月24日 第3回（ウェブ会議）、
6月30日 第4回（ウェブ会議併用）

○ 車椅子利用者の予約方法等のソフト対策について検討

ハード対策検討WG

2020年1月17日 第1回、2月 7日 第2回、4月24日 第3回（ウェブ会議）、
6月30日 第4回（ウェブ会議併用）
7月12日 第1回実証実験、8月3日 第2回実証実験（大臣視察）

○ 車椅子用フリースペースの創設等のハード対策について検討

2019年12月23日
第1回検討会の様子（赤羽大臣の挨拶）

2020年1月16日
車椅子スペース等の視察の様子
（東海道新幹線　N700S試験車両）

2020年3月3日
新幹線の新たなバリアフリー対策
中間とりまとめの公表（大臣会見）

2020年8月3日
車椅子用フリースペース実証実験の視察の様子
（東海道新幹線　N700S試験車両）

3. 主な取組状況

○ 2020年3月 3日　新幹線のバリアフリー対策検討WGによる「新幹線の新たなバリアフリー対策（中間とりまとめ）」を公表
○ 2020年3月14日　普通車指定席の車椅子対応座席の販売方法を変更し、当日においても車椅子使用者用に確保（一般用席として販売しない）
○ 2020年4月20日　車椅子対応座席を利用する際の案内方法について、2日前までの申し込みを求めない形に5月号の時刻表から変更
○ 2020年5月11日　全ての新幹線において車椅子対応座席のウェブ申し込みを運用開始
○ 2020年8月28日　新幹線のバリアフリー対策検討会による**「新幹線の新たなバリアフリー対策について（とりまとめ）」**を公表

新幹線の新たなバリアフリー対策について

国土交通省

（「新幹線のバリアフリー対策検討会」におけるとりまとめ 令和2年8月28日）

東京オリンピック・パラリンピック競技大会を迎えるに当たって

- 東京オリンピック・パラリンピックを契機として、障害の有無にかかわらず、誰もが快適に移動や旅を楽しめる環境整備に向けた気運の高まり
- 成熟社会である我が国にとって、今大会のレガシーは「真の共生社会」の実現であり、それに向けて力強く前進する「歴史的転換」が求められている

「真の共生社会」に相応しい、あるべき新幹線の姿

- 現在の一般客室内の車椅子スペースは、
  ① 数が限られており（1編成につき1～2席）、グループで乗車することができない　② 車椅子に乗ったままでは通路にはみ出てしまう
  ③ 予約・購入に当たっては、介助者（駅係員）確保等により時間を要する場合があるほか、ウェブ上で予約・購入手続きが完結しない　などの課題

東京大会のレガシーとなる「真の共生社会」の実現に向け、**新幹線のバリアフリー化はその象徴となるべきもの**であり、誰もが当たり前に、快適に移動や旅を楽しむことができる、**世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道の早期実現**を目指す。

新幹線の新たなバリアフリー対策と今後の取組

速やかに実施する対策

（1）「車椅子用フリースペース」の導入
- 座席数に応じて1編成に3～6席（多目的室を除く）の車椅子が利用可能
- 移乗の有無や介助が必要な方、ストレッチャー式車椅子使用者など、様々な障害の状態に対応可能なレイアウト
- ウェブ上で予約・購入が完結するシステムの導入

（2）現在の車椅子対応座席（※）等の予約・販売方法の改善
- 窓口における発券手続きの見直しによる待ち時間の短縮等
- ウェブ申し込みの改善（申込期限の短縮等）

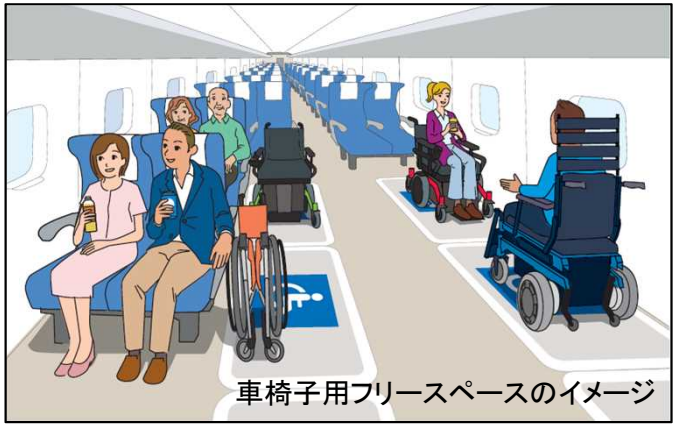
※車椅子スペースに隣接し、車椅子使用者が当該スペースを利用する際に予約する座席

新たな新幹線車両の導入時など中長期的に取り組む事項

- 今回整備する車椅子用フリースペースの利用状況等を踏まえつつ、座席種別ごと（グリーン車や普通車自由席等）への車椅子用フリースペース拡充を検討
- 授乳室の整備など車椅子使用者にとって利便性の高い多目的室の利用環境や介助者と共に使用できる車椅子対応トイレなど車内設備の仕様等について検討

早期実現に向けた取り組み

- 世界各地から多くの方々が訪れる東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、車椅子用フリースペースの導入を始めとする世界最高水準のバリアフリー環境を有する高速鉄道の実現に向けて関係者が一丸となって取り組む


車椅子用フリースペースのイメージ

新幹線における車椅子用フリースペースについて

国土交通省

1. 車椅子用フリースペースの基本的な考え方

隣の座席への移乗が困難な方、保護者の付き添いや介助が必要な方など様々な障害の状態に対応し、障害のある方が一般の方と同様にグループで快適に乗車できるよう、車椅子用フリースペースを一般客室に設ける。

2. 車椅子スペース数の考え方

1編成あたりの提供座席数に応じて以下のように設定（グリーン車を除く）

1編成あたりの座席数	車両形式	座席数
1000を超える場合	総席数の0.5%※）以上	多目的室を含む
500～1000席	5席以上	
500席未満	4席以上	

※）国際パラリンピック委員会「アクセシビリティガイド（2013年6月）」による競技会場における車椅子座席の割合（一般の大会）

3. 車椅子用フリースペースの具体的な要件

① 少なくとも2人以上の方が車椅子に乗ったまま窓際で車窓を楽しめること

② 車椅子用フリースペースの通路は、乗客やワゴン等の通行に支障のない通路幅を確保すること

③ ストレッチャー式車椅子を含む大型の車椅子の方が2人以上で利用可能なこと

④ 車椅子使用者の移乗用席を2席以上※1）、それに隣接して※2）介助者もしくは同伴者の席を2席以上※1）設けること

※1）座席数500席未満は1席以上

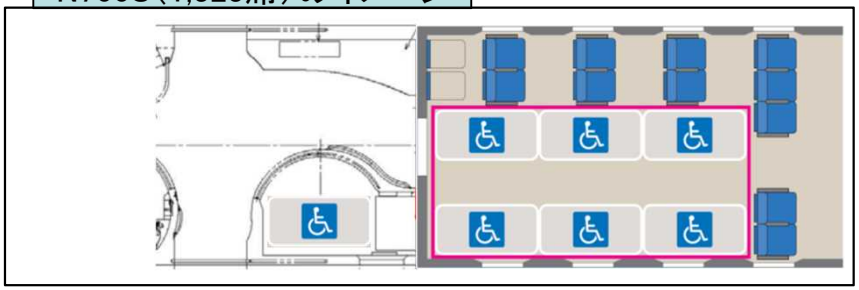
※2）車両の構造上の理由等により「隣接」とすることが困難な場合は「近接」も可とする

現行のN700S（車椅子スペース2席）

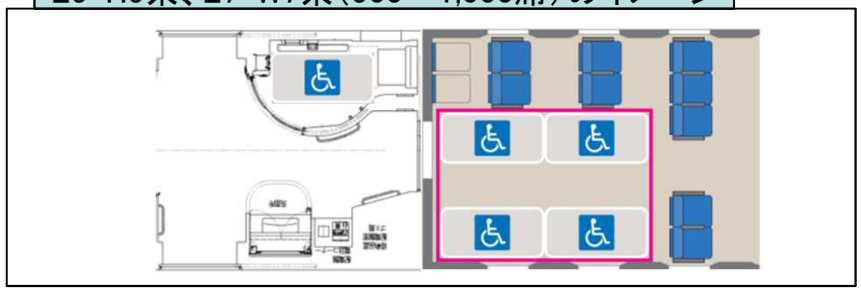
実証実験（8月3日）におけるN700S試験車両のレイアウト（車椅子スペース6席）

（参考）主な新幹線車両に当てはめた場合

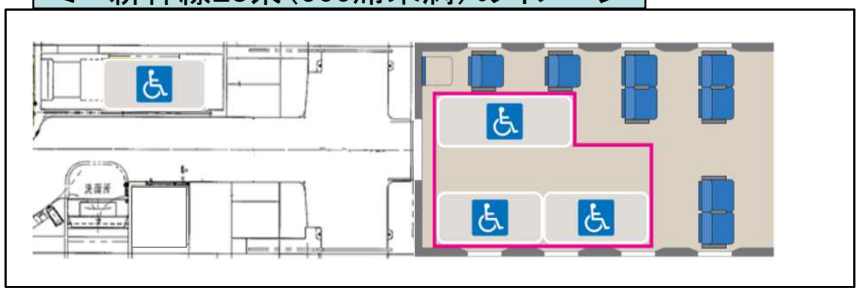
N700S（1,323席）のイメージ



E5・H5系、E7・W7系（500～1,000席）のイメージ



ミニ新幹線E8系（500席未満）のイメージ



※2024年春導入予定

【凡例】

□：車椅子用フリースペース　♿：車椅子スペース